

# 令和8年度 東京都立田無高等学校 学校経営計画

令和8年4月1日  
校長 長嶋 浩一

## 第1章 目指す学校

R7 学校経営報告に示された成果と課題を踏まえ、田無高校の強みである「授業改善」「探究の深化」「進路指導の組織化」「生徒支援の強化」をさらに推進し、学習成果と学校満足度の向上を両立させる学校づくりを明確化する。

### 【教育目標】

校訓「叡智・敬愛・剛健・自律」に基づき、次の生徒像の育成を目指す。

- ・個性と能力を最大限に伸ばし、知性と創造力を育てる生徒
- ・思いやりをもち協働できる生徒
- ・心身ともに健やかで、主体的に挑戦する生徒
- ・判断力と責任感をもち、自律的に行動できる生徒

### 【スクール・ミッション】

学力の向上と定着、応用力の育成と自ら学ぶ力の育成を目指す生徒のための学校として、部活動や学校行事等の様々な教育活動や、地域行事への協力、近隣の小学校、中学校、特別支援学校との交流を深めることを通して、グローバル社会に対応し、多様な人々とコミュニケーションが取れる人材を育成します。

### 【スクール・ポリシーとの接続】

本校は、グラデュエーション・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの3つのスクール・ポリシーに基づき、教科指導・生活指導・特別活動・進路指導の全領域を統合的に運用する。

これにより、学習習慣の確立、主体的・対話的で深い学び、生徒一人ひとりの進路形成の支援を進め、「成長を実感できる学校」を実現する。

### 【グラデュエーション・ポリシー】

- ・課題を発見し、根拠をもって考察する力
- ・自他を理解し、協働して価値を創造する力
- ・データ活用と ICT を使いこなし、学習成果を言語化する力
- ・グローバル社会で通用するコミュニケーション力(英語・探究発表)
- ・自ら目標を設定し、進路を切り拓く力

### 【アドミッション・ポリシー】

- ・授業に主体的に参加し、学習習慣を確立できる生徒
- ・探究や部活動に挑戦し、多様な人々と協働できる生徒
- ・英検 S-CBT や探究発表等、新しい学びに積極的に取り組むことのできる生徒
- ・社会への関心をもち、将来の進路を自ら切り拓こうとする生徒

### 【カリキュラム・ポリシー】

令和8年度、次の3点を柱に再編成する：

- 1 授業改善の観点統一  
生徒の学びの可視化と PDCA の強化
- 2 探究の型の再構築  
全学年共通テンプレート、考察ルーブリック、外部発表の機会拡充
- 3 進路データの全校共有と伴走支援  
CEFR、探究データ、授業満足度を統合した「全校ダッシュボード」、全教員による面接・志望理由書指導

## 第2章 中期的目標と方策

### ◆1 学習指導

#### 【中期目標】

授業満足度 85%を安定させ、CEFR スコア・家庭学習時間の改善を同時に実現する。

#### 【中期方策】

- ア 授業観点統一と PDCA の年3回運用
- イ CEFR/S-CBT の個別弱点データ活用
- ウ 家庭学習量の標準化と毎月レビュー
- エ 放課後講習と探究発表練習の時間割改革
- オ ICT 活用(小テスト誤答分析・直後フィードバックの必須化)

#### 【デジタル技術を活用した教育の推進】

本校は「東京都教育ビジョン(第5次)」および「東京都学校教育情報化推進計画(令和6年)」に基づき、ICT を活用した形成的評価、学習データの分析、全校ダッシュボード運用を強化し、個別最適な学びと協働的学びの両立を図る。

### ◆2 生活指導

#### 【中期目標】

遵守意識の向上と特別指導件数の抑制。  
教員間の指導ブレをゼロへ。

#### 【中期方策】

- ア SNS 田無ルール動画化
- イ 生活指導チェックリスト導入
- ウ 守れている生徒を可視化する評価システム
- エ 遅刻指導の段階制・統一化

#### 【いじめ総合対策(第3次)】

「いじめ総合対策【第3次】」に基づき、  
・いじめ未然防止の授業(情報モラル・人権教育)  
・教職員研修(初動対応、記録方法、組織的対応)  
・相談体制(窓口)の明確化と周知 を実施する。

### ◆3 特別活動

#### 【中期目標】

自己肯定感のさらなる向上と成功体験の系統的蓄積。

#### 【中期方策】

- ア 成功体験の共有会の定例化
- イ チャレンジデーの制度化
- ウ 目標設定指導(SMART)と進捗可視化
- エ グループ振り返りの組織的運用

### ◆4 健康教育

#### 【中期目標】

安心して通える学校の実現(支援会議・ケース会議の機能強化)。

#### 【中期方策】

- ア 支援方針の保護者への明文化と定期発信
- イ 個別支援計画の質向上

ウ ケース会議・推進委員会の定例運用

エ 情報モラル教育・安全教育の強化

【不登校・中途退学の未然防止】

「生徒指導提要(令和4年)」および「チャレンジサポートプラン(令和6年)」に基づき、

- ・不登校傾向の早期把握
- ・迅速な支援方針決定
- ・家庭・関係機関との連携 を行い、未然防止と早期支援を徹底する。

【自殺対策基本法改正を踏まえた SOS の出し方教育】

- ・SOS の出し方に関する授業
- ・校内外の相談窓口の周知
- ・相談行動を促す啓発 を体系的に実施し、生徒の安全を確保する。

【TOKYO ACTIVE PLAN に基づく体力向上施策】

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を踏まえ、体育科・保健部と連携して

- ・体力向上プログラム
- ・生活習慣改善支援
- ・運動機会の増加 を推進する。

【特別支援教育(H19 文科初 125 号通知)】

「特別支援教育の推進について」(H19 通知)に基づき、

- ・合理的配慮の適切な提供
- ・個別支援計画の精度向上
- ・特別支援委員会の機能強化 を進め、生徒の特性に応じた支援体制を構築する。

◆5 進路指導

【中期目標】

現役進路決定率 96%への回復、第一志望達成率の向上。

【中期方策】

- ア 面接・志望理由書の全教員体制
- イ 卒業生バンクのデータベース化
- ウ CEFR 別ロードマップの全校運用
- エ 国公立志願者の計画的育成

◆6 広報活動

【中期目標】

第一志望率の 88%回復、学校魅力の体系的発信。

【中期方策】

- ア データで魅力を語る説明会
- イ 探究成果・英検成果のポスター化
- ウ ホームページの質向上
- エ 生徒主体の説明会の拡充

◆7 組織運営

【中期目標】

授業・探究・進路を支える「全校的マネジメント」の確立。

【中期方策】

- ア 年3回の全校 PDCA

- イ 授業観点・探究観点の統一
- ウ 電子起案・情報共有の強化

#### ◆8 働き方改革

##### 【中期目標】

「無理なく成果を出す」組織へ転換する。

##### 【中期方策】

- ア 会議の効率化
- イ ペーパーレス化
- ウ ICT 活用による業務削減
- エ 相互尊重の文化を徹底

### 第3章 今年度の取組目標と具体的方策

令和7年度に得られた成果(授業満足度の向上、探究活動の深化、生徒支援体制の強化)と、課題(家庭学習時間の減少、特別指導件数の増加、第一志望率の微減)を踏まえ、令和8年度は以下の3つの重点事業を軸に学校経営を推進する。

#### A 海外学校間交流推進校(グローバル交流の深化)

##### 【取組目標】

- 1 英語運用力の向上(CEFR A2 → B1)
- 2 異文化理解・国際的視野を備えたコミュニケーション力育成
- 3 探究と連動した国際協働学習機会の拡大

##### 【具体的方策】

- ア 海外高校との定期交流(オンライン)年2回以上
- イ 英語スピーキング強化プログラムの実施
- ウ ビデオレター・共同課題研究(共通テーマによる交流)
- エ 訪日高校生受入による国際交流行事の拡充

#### B 外部検定試験実施校(英検 S-CBT 全員受験)

##### 【取組目標】

- 1 CEFR の進捗を校内で可視化し、弱点を全教科で共有
- 2 3年間の英検ロードマップを全員に提示
- 3 4技能の系統的習得

##### 【具体的方策】

- ア CEFR/S-CBT の全校ダッシュボード化
- イ 英語科授業への英検対策組込み
- ウ 個別弱点補習(誤答分析→補習→再受験)
- エ 準2級(A2)到達モデルを全生徒に提示

#### C 探究的な学び推進事業(TIPS-Type4)

##### 【取組目標】

- 1 統一した探究の型(問い→調査→分析→考察→発信)の定着
- 2 弱点だった「考察力」の強化
- 3 外部発表の機会を年2回以上確保

### 【具体的方策】

- ア 全学年共通探究テンプレートの導入
- イ 探究サポーター(大学生・大学院生)との協働
- ウ 地域連携プロジェクトの再編成
- エ 大学・行政・地域での外部発表の体系化
- オ 週1回の探究発表練習枠の固定

## 1 学習指導「指導と評価の一体化」

### 【取組目標】

- (1) 授業満足度 85%の達成と安定化
- (2) 家庭学習時間の増加(29分→45分)
- (3) 補習と講習の“連動型指導”への改革

### 【具体的方策】

- ア 教科主任会・教科会の制度化(補習・家庭学習量・アンケートの定期レビュー)
- イ 授業観点の統一(授業観察シートと生徒アンケートの一致)
- ウ ICT活用(誤答分析共有・授業直後のフィードバック)
- エ 放課後時間の再設計(探究練習枠と講習の両立)

## 2 生活指導「規律と秩序の再構築」

### 【取組目標】

- (1) 校則理解 70%→75%以上
- (2) 特別指導件数の抑制
- (3) 「指導のブレゼロ」の実現

### 【具体的方策】

- ア 生活指導規定の可視化と動画化
  - イ 遅刻段階指導の明確化
  - ウ 授業規律の徹底
  - エ 遵守できている生徒の評価・表彰
  - オ 指導チェックリストで教員間の基準差を解消
- ※いじめ対策(第3次)は第2章に記載済

## 3 特別活動「自己効力感と挑戦文化の醸成」

### 【取組目標】

- (1) 成功体験の継続的蓄積
- (2) 挑戦する文化の定着
- (3) 振り返りの質向上

### 【具体的方策】

- ア 成功体験共有会(定例化)
- イ 目標達成チャート・ポジティブノート
- ウ チャレンジデーの制度化
- エ ディスカッション・ロールプレイ拡充
- オ 振り返りジャーナルの活用

#### 4 健康教育「安心して通える学校づくり」

##### 【取組目標】

- (1)生徒支援満足度 84%→さらなる向上
- (2)保護者理解度の改善

##### 【具体的方策】

- ア 個別支援計画の質向上と定期更新
  - イ ケース会議・推進委員会の毎月実施
  - ウ 情報モラル教育(SNS・薬物・交通)
  - エ 避難訓練(年3回)と地域連携訓練
  - オ コンディションレポートの活用
- ※ 不登校支援・SOS教育・体力向上・特別支援教育は第2章で記載済

#### 5 進路指導「データに基づく伴走支援」

##### 【取組目標】

- (1)現役進路決定率:94%へ回復
- (2)第一志望実現率の向上
- (3)国公立志願者の組織的育成

##### 【具体的方策】

- ア 面接・志望理由書指導の全教員標準化
- イ 卒業生バンクのデータベース化
- ウ 探究との連携によるキャリア形成
- エ 模試・到達度テスト活用の学力分析会
- オ 英検 S-CBT 全員受験(CEFR 推移管理)

#### 6 広報活動「学校魅力の戦略的発信」

##### 【取組目標】

- (1)第一志望率:83%→88%
- (2)説明会参加者数:1,858→2,000

##### 【具体的方策】

- ア ホームページ「月1テーマ」更新
- イ 学校紹介動画の強化
- ウ 生徒主体の説明会(年5回)
- エ 近隣中学・地域・企業との連携強化
- オ 海外交流・探究成果のポスター化

#### 7 組織運営「全校マネジメントの高度化」

##### 【具体的方策】

- ア 年3回のPDCA固定化
- イ 授業・探究・進路の観点統一
- ウ 電子起案と情報共有
- エ スクールミッション再共有
- オ 教科主任会・教科会の定例運用

## 8 働き方改革「成果と持続性の両立」

### 【具体的方策】

- ア 会議の短縮・効率化
- イ ペーパーレス化
- ウ ICT 活用による業務削減
- エ メンタルヘルス支援の強化
- オ 保護者連絡ツール(Classi)による効率化

## 第4章 令和8年度の重点項目

令和7年度は、授業満足度の向上、探究意識の改善、生徒支援体制の強化、学校・部活動満足度の上昇といった成果が見られた。一方で、家庭学習時間の減少、進路決定率の低下、第一志望率の微減、英検合格数の伸び悩み等、学習習慣と進路領域に課題が残った。

令和8年度は、「授業 × 探究 × 進路・学習習慣」の三位一体改革で学校経営を進める。

### 【重点項目1】授業改善の観点統一と全校 PDCA の強化(基盤)

#### (1)取組

- ア 授業観察シートと生徒アンケートの観点を完全一致させる
- イ 全学年共通の授業改善項目を設定
- ウ 教科主任会を軸に年3回の全校PDCAを制度化
- エ CEFR・探究・授業評価を統合した全校ダッシュボード運用

#### (2)ねらい

- ア 授業の質を安定的に向上させ、「わかる・できる」実感を増やす
- イ 進路成果・英検成果・学習習慣の改善へ波及
- ウ 全教員が共通基準で授業改善を進める「田無モデル」の確立

### 【重点項目2】探究の型の再構築と発表の機会(校内・大学・地域)年3回化(挑戦)

#### (1)取組

- ア 全学年共通の探究テンプレート(問い → 社会発信)を導入
- イ 弱点だった「考察」をルーブリック・例示集で強化
- ウ 大学・行政・地域との連携による外部発表を毎学期1回実施
- エ 放課後に探究発表練習枠を固定

#### (2)ねらい

- ア 自分の言葉で語れる生徒の育成
- イ 志望理由書・面接力の向上
- ウ 自己効力感の向上と学校魅力化
- エ 第一志望率向上への相乗効果

### 【重点項目3】進路指導と学習習慣の再設計(成果)

#### (1)取組

- ア 家庭学習標準量の明確化と毎月モニタリング
- イ 放課後講習と探究が両立する時間割へ再設計
- ウ CEFR データを活用した弱点補習→再受験
- エ 面接・志望理由書指導の全教員標準化
- オ 卒業生バンクのデータ化と進路行事への活用

## (2)ねらい

- ア 現役進路決定率の回復(94%)
- イ 家庭学習時間の改善(45分へ)
- ウ 第一志望達成率・一般進学率の向上
- エ 英検到達度の明確な伸長

### 【令和8年度の学校経営の方向性】

令和8年度は、授業改善(基盤)×探究改革(挑戦)×進路・学習習慣改善(成果)の三本柱により、本校の教育を「確かな学び×挑戦の機会×将来につながる力」へと進化させる一年である。

全教職員が共通言語をもち、データに基づく改善を積み重ねることで、生徒が「成長を実感できる学校」を実現する。

#### (1)データに基づく学校経営の深化

- ア CEFR・探究・授業評価・生徒支援データを全校ダッシュボード化
- イ 会議運営を「感覚」から「データ中心」へ転換
- ウ 指導改善・授業改善・進路支援を一体化

#### (2)学校としての「共通言語」の確立

- ア 授業観点統一
  - イ 探究テンプレート統一
  - ウ 進路指導の標準化
- 指導のばらつきを解消し、組織力を強化

#### (3)地域・大学・海外とつながる「開かれた学校」

- ア 大学・行政・地域との年間連携の体系化
  - イ 海外高校との交流(オンライン・対面)
  - ウ 卒業生バンクの活用
- 生徒の挑戦機会と自己効力感を拡大

#### (4)安全で安定した学校づくり

- ア ケース会議・特別支援委員会の定例化
- イ 保護者への支援方針の可視化
- ウ 情報モラル・安全教育の強化

#### (5)教職員が成果を出せる職場環境

- ア ペーパーレス化・電子起案の推進
- イ 会議の短縮と効率化
- ウ ICTによる情報共有と働き方改革
- エ メンタルヘルスケアと休暇取得の促進

### 第5章 経年変化を踏まえた今年度の数値目標

令和7年度の成果と課題を踏まえ、次の3観点を軸に数値目標を設定する。

- ① 成果を確実に伸ばす項目(授業満足度・探究関連・部活動・学校満足度・特別支援体制)
- ② 回復基調を作る項目(英検、家庭学習時間、進路決定率、第一志望達成率)
- ③ 改革によって改善を図る項目(学習習慣、倍率、広報効果、執行率)

### (1)学習・学力領域

項目	R7実績	R8目標	目標設定の根拠
授業満足度(%)	84	85	既に高水準。観点統一とPDCA強化で+1ptが妥当。
英検準2級以上(人)	87	150	R7の全員受験導入年度の揺れを踏まえ、急増でなく「段階的回復」。
漢検準2級以上(人)	24	30	R7報告の学習習慣改善項目と連動。
夏期講習講座数	40	45	R7で増加傾向。人的配置に無理のない範囲で拡充。
家庭学習時間(分)	29	45	R7の大幅減を踏まえ改善優先。

### (2)進路領域

項目	R7実績	R8目標	目標設定の根拠
共通テスト受験率(%)	17.9	23	R7から急低下。まず現実的な回復幅に設定。
現役進路決定率(%)	90.1	94	過去95%台だがR7は大幅低下。段階的回復とする。
大学一般進学(%)	21.2	22	既存計画を踏襲。
GMARCH現役合格(人)	6	10	R6の実績10を意識し、回復を目指す。
成成武明学(人)	4	5	R7実績と整合。
日東駒専(人)	12	18	大きな増加を避け段階成長に。
大東亜帝国(人)	66	75	過去実績から見た妥当範囲。
就職者(公務員含)	5(2)	5(3)	現状維持。

### (3)生徒支援・生活領域

項目	R7実績	R8目標	目標設定の根拠
特別支援委員会(回)	15	15	R7と同規模を維持。質重視。
部活動加入率(%)	75	78	75→78は妥当な上昇幅。
学校満足度(生徒)(%)	85	86	高水準のため緩やかな改善。
学校満足度(保護者)(%)	84	85	R7やや低下。信頼向上により改善を目指す。

### (4)学校魅力化・広報領域

項目	R7実績	R8目標	目標設定の根拠
本校第一志望率(%)	83	88	R7報告の重点として広報強化を掲げており妥当。
説明会参加者数(人)	1,858	2,000	減少傾向の反転を狙う数値。
中学校進学対策委員会倍率(倍)	0.96	1.10	1.20目標は急激のため、緩和し段階的上昇へ。
推薦倍率(倍)	2.09	2.40	R5・R6実績から現実的。
一次募集倍率(倍)	1.19	1.25	無理なく改善可能。
ホームページ更新回数	394	400	量から質への移行期。微増設定が妥当。

### (5)財務・運営領域

項目	R7実績	R8目標	目標設定の根拠
一般需用費センター執行率(%)	44.7	50.0	過去実績からの段階的改善。

数値の経年変化と今年度の目標

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度目標
授業満足度(%) (学力伸長)	▼65	△67	△80	△84	85
英検準2級以上合格者数(人)	△63	△105	△114	▼87	150
漢検準2級以上合格者数(人)	▼21	▼15	△25	▼24	30
夏期講習講座数(講座)	▼13	△42	▼37	△40	45
生徒の1日平均 家庭学習時間(分)	▼34	▼19	△35	▼29	45
大学入学共通テスト受験者(%)	22	△25.8	△27.1	▼17.9	23
現役進路決定率(%)	△98.4	▼95.1	△95.3	▼90.1	94
大学一般進学者 (現役)(%)	△26	▼21.4	▼17.9	△21.2	22
私立大学(GMARCH)現役 合格者数(人)	▼10	※5	△10	▼6	10
私立大学(成成武明学)現役 合格者数(人)	5	※3	▼2	△4	5
私立大学(日東駒専)現役合 格者数(人)	△22	※15	△20	▼12	18
私立大学(大東亜帝国)現役 合格者数(人)	△87	※51	△95	▼66	75
就職者数(うち公務員数)(人)	△7(2)	△11(5)	▼4(2)	5(2)	5(3)
特別支援教育に関する委員 会の開催回数(回)	10	▼7	△13	△15	15
部活動加入率(%)	▼68	68	△73	△75	78
学校満足度(生徒)(%)	▼69	△76	△84	△85	86
学校満足度(保護者)(%)	▼84	△87	▼85	▼84	85
本校第一志望者の割合(%)	▼72	△76	△86	▼83	88
学校説明会等参加者数(本 校実施分)(人)	▼1,353	△1,836	△1,989	▼1,858	2,000
中学校進学対策委員会 志願倍率(倍)	△1.19	△1.26	▼1.16	▼0.96	1.10
入学選抜応募倍率(推薦)(倍)	▼2.30	△3.13	▼2.66	▼2.09	2.40
入学選抜応募倍率(第一次 募集)(倍)	△1.45	△1.50	▼1.21	▼1.19	1.25
ホームページ更新回数(回)	▼212	△222	△348	△394	400
一般需用費のセンター 執行 率(%)	▼56.22	▼46.25	△50.92	▼44.7	50.00

備考 △前年度より数値が上昇 ▼前年度より数値が下降 ※令和5年度卒業生7クラス(その他は8クラス)